

## 「西部内科医会の濫觴と経緯」

座談会：2005年8月20日（土）

於：ホテル・オークラ浜松「山里」

出席者：元会長・幹事（旧浜松市・一部）

渡辺、熊岡、新村、長林、高橋（晃）、大坂・各先生

川村、熊谷、玉腰（現会長・幹事）

（文中敬称略）

川村：本日はお暑い中、また御多忙の中お集まりいただき有り難うございます。西部内科医会の方は代々幹事の先生方の御努力で講演会も順当に運営されて来ており、県内科医会の方も杉山会長就任以来、東中西部の関係はスムーズにいており昨年全会員の名簿も出来上がりました。また臨床内科医会の方も昨年懸案の法人化がようやく認められ、各県内科医会を母体とした正式の学術団体として6月に奈良で第一回（通算19回）総会・学会を開催するに至りました。ところで平成17年7月1日に浜松市を中心に周辺12市町村の大合併が決まり、いずれ各医師会の改編も行なわれると思われ、従って西部内科医会の方もその内容・形態が変わって行くものと考えられますので、この機会に西部内科医会のそもそもの始まりから今までの経緯を先輩の先生方にお話いただき出来れば記録に残しておきたいと言う企画であります。よろしく願いいたします。

渡辺：（西部内科医会初代会長）まずは「乾杯」。

西部内科医会のそもそもの始まりは、以前から谷口集談会という勉強会があって（谷口先生は石川県出身・九大卒、梅村外科の後任に赴任、医師会および対外的に中心となって活躍された）そこで有志でKlinische Wochenschrift, Medizinische Wochenschrift, JAMAなどをもって輪番で抄読会をしていた。

新村：静岡県医師会誌（2冊目）によると昭和38年5月に静岡県内科医会が設立されて県医師会からは東会長、浜田、長田理事が参加して発足したとあります。

長林：県内科医会の発足と同時に東・中・西部分科会も発足した。

渡辺：静岡県は東西に長いので東・中・西に分けて、以後大井川以西を西部内科医会とするようになり、有志が集まって上記の抄読会をやっていた。

当時はまだドイツ語が医学の主体で、英語が少しずつ入ってきた。

のちに大井川以西では広すぎて集まりにくいこともあって、君野君が浜松市内科医会を立上げ、そのうち医師会病院（37年6月）を作ることになり、後に医大を浜松に誘致することに発展した。

以前より西部には遠江医学会があって春秋に講演会などを開催していたので、西部内科医会は隔月に勉強会を開いていた。

長林：県内科医会が発足する時に西部を誰が引き受けるかと言うことになって谷口集談会が母体となって渡辺先生が西部内科医会を引き受けた。

新村：谷口集談会は昭和10年（あるいは11年）ころから開かれていたとあります。

大坂：県内科医会は昭和38年5月に発足し宮沢（会長）、三室（西部）、浅野（幹事）となっています。西部内科医会の会長が県内科医会の副会長を兼務するようになったのは昭和43年村尾先生からです。

長林：以前、浜名郡には二十日会という会もあった。

戦時中は医師会は統制下にあつて、戦後昭和22年厚生省から医師会を作る話が来て医師会で役員を選出したが、その全員が（駐留軍から）戦時協力としてパージ（公職追放）になり役員会を二回開いて新役員を選出した。

渡辺：軍籍のなかった加茂さんが会長に選ばれた。

新村：記録によると「昭和12年に日華事変が始まると和田が出征し、井村、神津、柴田、新山らが集まって市の公会堂で毎月医学雑誌の抄読会を続け、主な話し手は内田六郎で、会場を裏弁天の浜名湖ホテルに移して馬車に揺れられて行ったなど楽しい思い出がある。有志による勉強会であったが、医師会の中では派をなすものと疑われる事もあって希望者はだれでも入会を認めた。

終戦後、落ち着くとともに再開し、昭和23年、村上、榎本、坂本、渡辺、美甘らが集まり医師会館、保健所、商工会議所などで開催、三カ月に一回の会食では明治会館、錦水などで開いた。疎開していた井村も入会し、昭和30年に渡辺、美甘、坂本らで圭友会を結成し東京、名古屋から講師を招いて講演会を開き、抄読会も平行して続けた。その頃の名簿に竹之内、柴田、神川、川口、長尾、大久保、矢部、島崎、井村、二橋の名が見られる。昭和37年医師会中央病院の開院とともに集談会、圭友会ともに発展的解散となり、診療協議会に移行した。」と県医師会20年誌に載っています。

渡辺：28年に坂本、美甘、渡辺の3同級生で「圭友会」（平野さんが名付けた）を始め症例検討や文献の抄読などをやった。

熊岡：症例の発表と文献の抄読で大変だったよ。

長林：38年に県内科医会が発足し渡辺先生が代表で出席しています。西部内科医会も同時に会則ができている。

渡辺：37年6月に中央病院を開いたので県の方まで手がまわらなかった。

熊谷：県内科医会の発足について杉山先生が調べたところ、その頃日本医師会の静岡県代表で出ていた2人の先生が内科医で、県内科医会を創ろうということになったようです。

渡辺：谷口集談会が医師会に平行して開かれていた。ドイツ医学からアメリカ医学に移行する時で勉強せざるをえなかった。

長林：堀江県、浜松県の頃は県庁もあり医師養成（医学校）もあり西部が先進的だった、それがゆくゆく静岡県に統合されたという経緯がある。

渡辺：講演会だけではだめで、やはり患者を診て勉強すべきだということになって医師会病院の構想が生まれ、当時栃木で土屋という人が医師会病院をやっていたので坂本、島崎、木俣、渡辺の4人で栃木に見学に行き、本格的に医師会中央病院を始めた。日本でも最初の本格的医師会病院だと思う。

.....

その後も思い出話も出て延々と談話は続き、予定を超過して（テープ切れ）会は終了した。

.....

後記：本日の座談会によって「西部内科医会の創設から経緯」の概要がよくわかりました。敗戦という我国にとって大変な社会変革の中、先輩諸先生方が臆する事なく新しい医学へ情熱をもって取り組み、医学の炎をともし続けた熱意には大変感銘を受けました。今後、西部内科医会としては西部地区の独自性を守りつつも、県東部・中部内科医会と連携し県内科医会を盛りたて、また更に臨床内科医会の発展に関与することによって全国の内科医との連携を深め、内科医として更なる研鑽によって、諸先輩の育てあげて来た医学と地域医療に対する情熱を継承・継続する責任を強く感じました。（文責：川村）